

# グループホームかもめの家

**症例概要**      利用者:100歳代 要介護4

病名:アルツハイマー型認知症

グループホームかもめの家 3階フロアご利用(入居:平成19年7月中旬～現在)

経過:2020年12月より発熱を繰り返し、「偽痛風」の診断を受ける。体力及び食事摂取量が低下し、臥床時間も長くなり左下肢に褥瘡が発生。回復は難しいだろうとDrの見解もあり、お看取り対応となりました。しかし特養・看護・栄養課とチームで連携し、褥瘡の治癒、体調の回復、離床時間の延長、食事摂取量の向上、車椅子自走を経て、見事に笑顔で誕生日を迎えた事例。

## 内 容

12月上旬より発熱を繰り返され、主治医からは「偽痛風」の疑いと診断。右手首から右肘にかけて腫れと熱感が出現し、体力消耗も顕著でベッド上での生活が続きました。食事摂取量も低下し、お看取り対応の段階に入った為、ご家族へ連絡。お顔を拝見されに面会へ来られ、「本当にありがとうございます。最期までお願いします。」とお言葉を頂戴しました。

年が明け、開口も難しくなり殆ど目を閉じた状態となりました。ご本人の嗜好品(ウナギ、プリン、あんこ、さつまいも、カボチャなど)を中心に提供方法を看護・管理栄養士と連携。はじめは開口も難しい状況でしたが、徐々に1口から2口、茶わん半量と傾向摂取ができるようになっていきました。

その様な中、令和3年2月初旬、左足第5趾に第4趾と癒着してできた褥瘡を発見。また圧迫による発赤も左足にある状態。静養時の除圧が不完全であると要因とを分析し、特養におけるTQM活動テーマである「ポジショニング」を教育委員長指示の基、全職員で学び直し、医療連携看護との連携により約1ヶ月で褥瘡を治癒させることができました。

体調が良い時は10分でも離床する時間を作ることで、他者とのふれあいや刺激を受け、閉眼している時間は減少していきました。笑顔が生まれていき食事量、水分量の向上、また車椅子での自走や自分で飲み物をのむまで回復する事が出来ました。

令和3年3月初旬に誕生日を迎えることができました。フロアにて仲間の皆さまと盛大にお祝いし、笑顔溢れる時間を過ごされております。ご家族からは「ここまで良くして下さい本当に感謝です。かも

めの家の皆様が良くして下さいからおばあちゃんもいつも笑顔で過ごせるんです。」とお言葉を頂戴しております。

経口摂取、日々の関り、チームケアの重要性に職員は改めて気づき、自ら動き、自ら食べるという尊厳を利用者さんは取り戻すことが出来ました。

利用者さんには輝きの笑顔と1日を、ご家族には安心を超えた感動、職員にはやりがいと成長の場というValue(価値)を見出すことができたこの症例はキラキラ介護賞に値すると思い推薦させていただきます。